



ひがさき踊り（金光町佐方）・地踊り



写真2 新調した傘

広報用実績のまとめ

令和 4 年度

団体名

佐方ひがさき踊り保存会

会長

平田耕三

記載者

平田 耕三

所在地(市区町村名のみ)

浅口市

活動目的

浅口市指定無形民俗文化財「ひがさき踊り(金光町佐方)」の保存と伝承

団体の紹介

「佐方ひがさき踊り保存会」は、浅口市金光町佐方地区の伝統芸能である浅口市指定無形民俗文化財「ひがさき踊り(金光町佐方)」の保存と伝承を目的として昭和49年に結成された。現在約30名の会員が、地区民や小学生児童への伝承、継承活動に努めている。

助成を受けての活動内容

保存会の先輩から長年受け継いできたひがさき踊りの顔である「傘」が劣化してしまったため、この度の助成金で新調させていただいた。

新調した傘は、令和4年8月26日の諏訪神社の奉納踊りを始め、活動毎に披露をしている。毎年実施している浅口市立金光吉備小学校の運動会での活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、今年度は見送りとなった。しかし、同小学校3年生の総合学習では、12月1日と9日に出前講座を実施し、傘を披露することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で「地区の夏祭り」「浅口踊り交流会」は、現在中止となっているが、再開した際は、助成いただいた傘を多くの方々に披露し、大いに活動が広がることを願っている。



助成を受けての成果

諏訪神社の奉納踊りや小学校での総合学習では、新しい傘を用いて踊りを披露することができました。このことは、青少年健全育成や伝統文化の伝承に参画できたと感じている。また、踊りに欠かせない大切な傘を新調させていただいたことで、会員の活動意欲も大変高まっている。

今後の活動の課題点

地域の古老の話によると、この「ひがさき踊り」は古くから地域全体の踊りとして広く踊られていたというが、過疎化や少子高齢化により、近年踊る人が少なくなり、地域の一体感も薄れてきている。諏訪神社、地域の方々や地元の小学校とも連携をはかり、大人も子どもも一体になって、この踊りを中心に地域全体を盛り上げ、元気にしていく。その核になって活動を続けると共に、子供達にこの貴重な伝統文化を継承して将来に引き継いでいきたいと考えている。

問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)